

かいせい



「自分が好き、友だちが好き、学校が大好きな 開西小の子」

帯広市立開西小学校 学校だより 令和6年11月15日 No.14 TEL 36-8723 FAX 36-8456

令和6年度のめざす学校の姿

STEP+1 (「笑顔」「信頼」「期待」「誇り」プラスワン!!)

令和5年度の重点目標

「夢に向かって幸せに生きる」力を育む～表現する 認め合う 考えをもつ 挑戦する～

学習発表会終了!

11月8日、学習発表会が終了しました。保護者・地域の皆様には、お忙しい中ご来校の上、温かい拍手をいただき、大変ありがとうございました。子どもたちは、短い準備期間の中で、これまでの学習の成果を十分発揮することができたと思います。ご家庭でも、子どもたちの今日の頑張りをたくさん褒めていただければと思います。

さて、学習発表会は、学習指導要領では「学校行事」に位置付けられ、目標を「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」としております。また、内容としては「平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。」とされています。最後に6年生も言っていました、子どもたちには、この学習指導要領の目標にもあるように、今回の経験を生かして、今後の学校生活において、よりよい学校づくりのために、何事にも積極的に挑戦して行ってほしいと思います。



「がんばる開西の子」



帯広市スポーツフェスティバル柔道
小学生男子5～6年の部 準優勝
6年児童
小学生男子3～4年の部 準優勝
4年児童
令和6年10月14日



2024 帯広市スポーツフェスティバル協賛
第23回オール十勝ジュニアフットサル大会
U-9 Aブロック 優勝
3年児童
(開西つつじが丘 JrFC)
令和6年10月14日



2024 帯広市スポーツフェスティバル協賛
第23回オール十勝ジュニアフットサル大会
U-11ブロック 優勝
5年児童
(開西つつじが丘 JrFC)
令和6年10月14日



日本スイミングクラブ協会
泳力認定6級
3年児童
令和6年9月26日
第8回オカモト杯水泳競技大会
25m自由形 29秒24
3年児童
令和6年9月22日



全日本通信珠算競技大会道東支部大会
フラッシュ暗算競技 小学4年以下の部 第4位
個人総合競技 小学4年以下の部 努力賞
4年児童
令和6年10月20日



日本スケート連盟バジテストシングル
アイスダンス 初級
1年児童

※ 前号に続き、まだ各種大会の受賞者がおりますが、紙面の都合により次号に掲載させていただきます。お待たせして申し訳ございません。

全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日に第6学年の児童を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、すでに全国・全道の結果が公表され、対象児童へも個票を渡しています。今回は、本校の結果等の概略についてお知らせいたします。

全国学力・学習状況調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」ことを目的とし、平成19年度より行われています。

小学校は、第6学年を対象とし、国語・算数の2教科（年度によっては理科も実施）で調査しています。なお、本調査により測定できるのは子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえながらも、これまでの指導との関連を図りつつ今後の指導に生かしていきたいと考えています。

◆ 調査結果の概要

○ 国語について

国語の平均正答率は、全国・全道を上回る結果であった。内容を見ると、特に思考力・判断力・表現力等における「読むこと」の領域における平均正答率が高かった。

○ 算数について

算数の自校の平均正答率は、全国を下回り、全道を上回る結果であった。領域別で見ると、「データの活用」が全国・全道を大きく下回り、与えられた情報から必要な数値を読み取り、判断したり記述したりすることに課題が残った。

○ 児童質問紙について

「基本的な生活習慣」や「友達関係が良好」「学校生活を前向きに過ごす」などの項目で全国・全道よりも肯定的に回答した児童の割合が高く、「家庭学習などの学習習慣」「将来の夢や希望をもっている」という項目については課題が見られた。

◆ 今後の取組

- 算数科については、比較・類推などの場面を意図的に設定して、論理的に筋道を立てて考える機会を増やす授業改革を進める。
- 授業において、タブレット端末を思考ツールとして活用する場面を増やすとともに、児童一人一人が思考を深めるための時間を確実に確保する。
- 家庭学習の習慣化及び内容の充実を家庭と連携しながらさらに進める。
- おび学や出前授業など、外部人材の活用によるキャリア教育の推進をはじめ、身近なロールモデルとして、中学生との交流や教職員の講話機会を積極的に設けることで、本校の重点目標「夢に向かって幸せに生きる力」の醸成に努める。

※ なお、詳細な学校の状況につきましては、後日、ホームページでお知らせいたします。